

「健幸まにわプラン（第3次真庭市食育・健康づくり計画、第2次真庭市自殺対策計画）」（案）に対する意見の内容や意見に対する市の考え方について

番号	該当箇所	意見の概要	市の考え方
1	基本施策(4) 誰もが健康になれる環境づくりの推進 ②地域社会とのつながり(P72) 基本施策(5) いのちが輝くための取り組み(P74)	健康づくりボランティアというボランティアは、真庭市にはないと思います。真庭市愛育委員・真庭市食育推進ボランティア・真庭スポーツ推進委員などを総称した呼び方であれば、P72で「食を支えるボランティア」「健康づくりボランティア」という存在しないボランティア名ではなく、具体的な名称がよいと思います。	真庭市が主に関連する健康づくりボランティアは、愛育委員と真庭市食育推進ボランティアと考えています。本計画は、令和8年度から令和17年度までの10年間の計画期間となっています。社会的な背景や地域の現状により、将来に向けてのあり方について発展的な見直しの検討も踏まえ、健康づくりボランティアや食を支えるボランティアという表現にしています。
2	基本施策(5) いのちが輝くための取り組み(P74)	いのちが輝くための取り組みの目標設定に、健康づくりボランティアによる声掛けの指標については、引きこもり関連の研修を受けている民生委員の地域訪問の方が適切だと思います。	ご指摘いただいたように、いのちが輝くための取り組みには、健康づくりボランティアである愛育委員だけでなく、引きこもりに関する研修を受けている民生委員の地域訪問も関連しています。いのちが輝くための取り組みの分野については、地域における健康増進活動の機会での声かけや気づきを目的としているため、健康づくりボランティアによる声掛けを指標としています。
3	基本施策(6) 絆（ネットワーク）の強化 (P76)	絆（ネットワーク）の強化については、社会福祉の観点から、地域の委員に福祉委員も加えた方がいいと思います。	ご指摘いただいたように、絆（ネットワーク）の強化のためには、社会福祉の観点も大変重要です。市民生活をサポートする福祉委員も含めた表記に見直します。
4	第5章 計画の推進に向けて 2 各主体に期待される役割 (P80)	教育・保育機関の役割の中で「食を営む力」とあるが、この意味が文部科学省の食育の定義から引用していると補足したほうがいいと思います。	本計画に表記している「食を営む力」は、文部科学省の食育から引用しているものではありません。しかしながら、わかりにくい表現であるため見直します。
5	健康づくり、食育、自殺対策に関する主な取り組み一覧 【健康寿命の延伸と健康格差の縮小】 (P82) 【個人の行動と健康状態の改善】 (P82)	健康寿命の延伸と健康格差の縮小については、現状、愛育委員の支援をしていただきながら尽力しているので加えていただきたいです。また、個人の行動と健康状態の改善についても、愛育委員は、むし歯予防の啓発や歯科健診の勧奨などにも取り組んでいるので、食育推進ボランティアだけでなく愛育委員も加えていただくか、健康づくりボランティアの育成・支援に修正していただきたいです。	健康寿命の延伸と健康格差の縮小については、愛育委員等の健康づくりボランティアの取り組みも関連していると考えています。しかしながら、健康寿命の延伸と健康格差の縮小へは、愛育委員以外のその他多くの施策や関係団体も関連していることを踏まえ、表記していません。また、ご指摘いただいているように、愛育委員には、むし歯予防や歯科健診の啓発など、市民の歯と口腔の健康づくり活動を主体的に取り組んでいただいている。これらを踏まえ、健康づくりボランティアの育成・支援という表記に見直します。
6	健康づくり、食育、自殺対策に関する主な取り組み一覧 【生活習慣病(NCDs)の発症・重症化予防】 (P86)	生活習慣病（NCDs）の発症・重症化予防について、愛育委員は、長い間、がん検診の受診勧奨に力を注いでいますので、愛育委員との連携も加えていただきたいです。	ご指摘いただいたように、愛育委員は、これまでがん検診の受診勧奨に取り組んでいただいている。今後も、行政と愛育委員等の健康づくりボランティアが連携しながら、がん検診の受診勧奨を進めていくような表記にします。
7	健康づくり、食育、自殺対策に関する主な取り組み一覧 【ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりの推進】 (P89) 【誰もが健康になれる環境づくりの推進】 (P90) 【いのち輝くための取組み】 (P91)	愛育委員等の健康づくりボランティアの育成・支援とありますが、愛育委員以外のボランティアがいなければ、愛育委員だけでよいと思います。	真庭市が主に関連する健康づくりボランティアは、愛育委員と真庭市食育推進ボランティアと考えております。番号1でも回答しているように、将来に向けてのあり方について発展的な見直しの検討も踏まえ、愛育委員等の健康づくりボランティアの育成・支援として進めていきたいと考えています。